

II 事業の概要

2018年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりです。

1 重点施策の推進

(1) 第2期中期計画の実施～長期ビジョンの実現に向けて

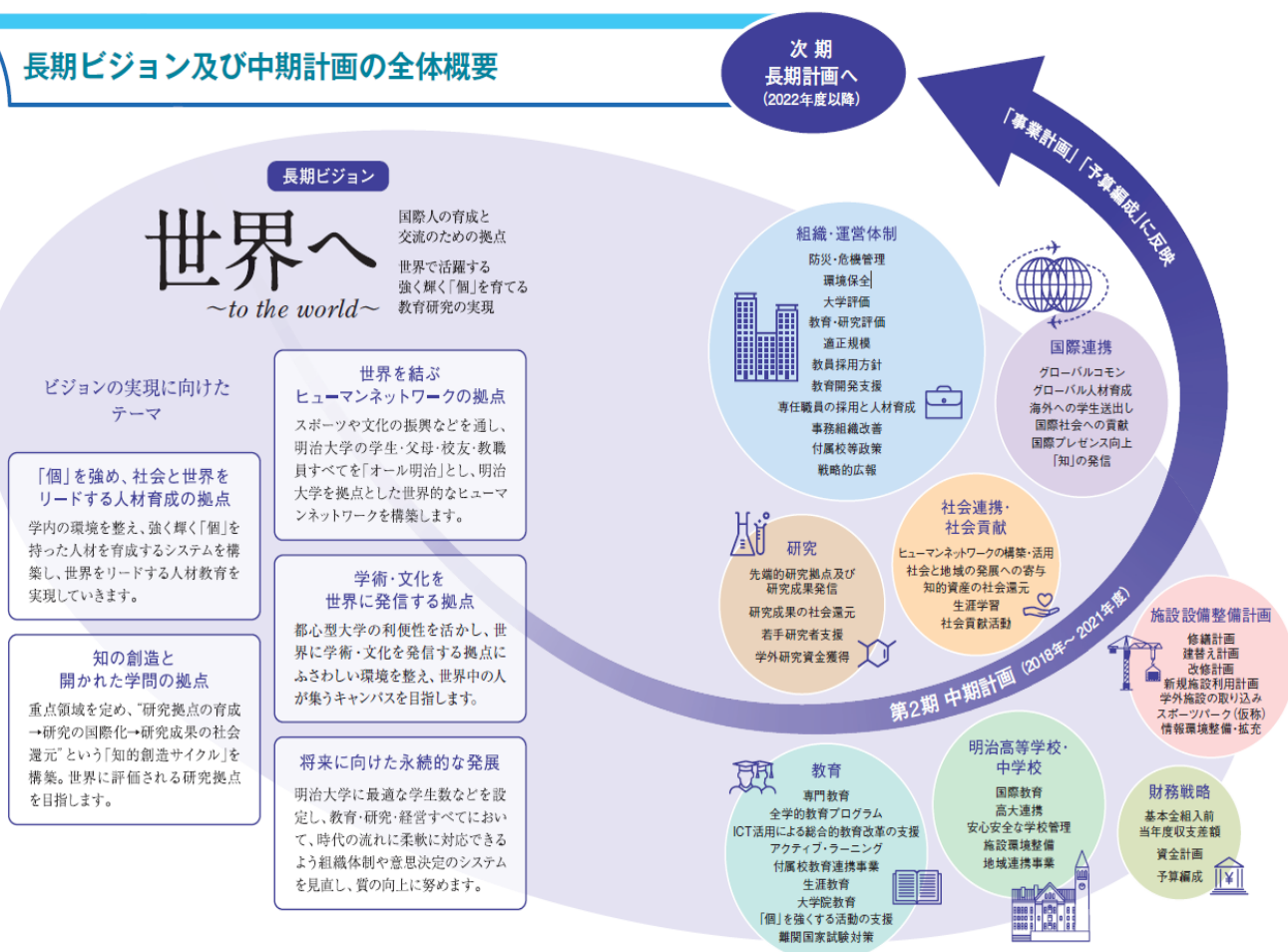
「学校法人明治大学長期ビジョン」の具体化及び本学創立140周年を見据えて、「第2期中期計画」（2018～2021年度）を策定しました。

第2期の初年度である2018年度は、中期プランを単年度の事業計画、予算編成、部門目標等に反映させ、各所管において着実に実行に移しました。なお、年度末には1年間の計画の進捗状況を確認するために「年度報告」を作成し、理事会で現状を確認・共有することによって、次年度以降のスムーズな事業遂行に繋げることを確認しました。

本学構成員が中期計画を共有し、想いを一つにすることによって、引き続き長期ビジョンの実現を目指します。

※ https://www.meiji.ac.jp/chousaka/middleterm_plan_ver1.html

長期ビジョン及び中期計画の全体概要



(2) 教育研究施設設備計画の推進

① 明治大学グローバル・ヴィレッジ (Meiji Global Village : 通称MGV) 竣工

和泉キャンパスに、最新の国際混住寮である「MGV」が誕生しました。学生の居住の場のみならず、国際化の推進、共創的学習・教育の推進の一環として、外国人留学生と日本人学生が学習スペースや交流スペースを共にしながら生活し、国際コミュニティを形成していく「学びの場」として位置付けられています。

2019年3月に竣工、2019年度から利用を開始します。

※ <https://www.meiji.ac.jp/campus/apartment/mgv.html>



② 和泉キャンパス新教育棟（仮称）整備計画始動

和泉キャンパスにおける教室数の不足や教育施設の老朽化、さらには社会の激しい変化に対応し、総合的な知の基盤である「教養教育」を展開する『場』の創出に向け、「和泉キャンパス新教育棟（仮称）整備計画」が始動しました。創立140周年記念事業として、2022年3月の竣工（予定）を目指し、「和泉キャンパス新教育棟建設推進協議会」を中心に、引き続き協議を継続します。

(3) 戦略的広報活動の展開～ブランド力を高める広報の推進

広報戦略本部を中心に、教育研究活動及びこれに付随する諸活動に関する情報等を広く学内外に発信するための広報戦略基本方針を策定するとともに、それに基づく最重点項目を設定し、本学のブランドを高める広報活動を推進しました。「明治大学広報」、広報誌「明治」等の紙媒体のほか、ホームページ、SNS等各種媒体を通じた情報発信、メディア・記者に対するプレスリリース等により、「旬（しゅん）」な明治大学の情報を学外に発信しました。

① 明治大学オフィシャルWEBサイトをリニューアル

3月に、オフィシャルWEBサイトを全面リニューアルしました。新サイトでは、(ア) デザイン刷新による良質なユーザエクスペリエンスを提供すること、(イ) 情報発信力とアクセス容易性を維持・向上させること一を両立させ、最終的に(ウ)「明治大学のブランド価値向上」を図ることを目的としています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/index.html>



② 公式プロモーション動画を公開

「キャンパスは世界～Go Forward, Go Global～」と題した本学公式プロモーション動画を公開しました。動画の一部はマイクロドローンを使用して撮影しており、

マイクロドローンが校舎内を縦横無尽に飛び回り、学生ギリギリに迫るダイナミックな動画となっています。なお、4キャンパス総合バージョンの他、和泉、生田、中野の各キャンパス紹介バージョンも公開されています。

※ <https://www.youtube.com/channel/UCHUGfW1MLpUhgTfh2pwFK8g>

(4) オール明治で前へ～ステーキホルダー（校友会・父母会）との連携

① 校友会との連携

ア おかえりなさい！母校へ！～第21回ホームカミングデー開催

10月、駿河台キャンパスにおいてホームカミングデーが開催され、約4,600名の校友やその家族等が来場しました。

イ 第54回全国校友石川大会

9月、全国の校友会支部、韓国の海外支部から約1,000名の校友とその家族が金沢に参集し、旧交を温めるとともに、新たな絆も深めました。

ウ ヒューマンネットワークをより強固に～本学出身の政財界人との懇談会開催

3月、ヒューマンネットワークの構築・強化を目的とした本学出身の政財界人との懇談会を開催し、国会議員や首長、上場企業の役員ら約180人が一堂に会し、大学役員・役職者と懇談しました。

エ 地方出身者対象「つなげ！紫紺の“たすき”」奨学金

校友会は、「校友から明大生へ、襷（たすき）を繋（つな）ぐように、皆さんを応援したい」という願いをこめて、「つなげ！紫紺の“たすき”」奨学金を設けています。この奨学金は、学費等以外にも生活費を必要とする地方出身者に奨学金を給付することにより、地方からの入学を促進することを目的とした給付型奨学金（返還不要）です。なお、採用された学生は、校友会が主催・後援する式典、講演会等に参加しました。

※ <https://www.meiji-shikon.net/>

② 父母会との連携

ア 父母会総会・父母懇談会

明治大学連合父母会が主催した父母会総会・父母懇談会が5月から7月にかけて、全国57地区父母会で開催されました。懇談会では、学生生活、学業成績、就職等に関して、父母と大学担当者との間で熱心な個別相談が行われました。

イ 父母対象の就職懇談会

首都圏11地区の父母会は合同で、学部3年生の父母を対象とした就職懇談会を10月に本学アカデミーコモンで開催しました。父母約680人が参加した懇談会では、父母の不安を少しでも和らげ、親子の対話が得られることを願って、本学の就職支援の説明と就職概況等の説明、専門家による講演会、内定者（4年生）をパネリストに迎えた就職活動体験報告が行われました。

(5) 多くの方々からの熱いご支援～募金活動の展開

① 寄付の実績

2018年度に本学が受けた寄付受入実績は、6億9934万5242円（前年度比約1億1011万円の増）でした。

寄付金の主な内容については次のとおりです。

ア 未来サポーター募金

奨学，国際化，研究，スポーツ及びキャンパス整備の5つの資金（使途）から構成される募金制度です。主な募集対象者は校友，教職員，一般篤志家の個人・団体・法人で，寄付金の用途を寄付者自身が上記5つの中から選択することができるのが特徴です。

2018年度は3,324件，2億8965万9773円の寄付を賜りました。なお，寄付による書籍等の販売収益からなる「本棚募金」寄付金約412万円（前年度比約61万円の増）も含まれています。

7月には各資金における前年度の活用結果をまとめた「活動報告書」を寄付者の方へお送りし，寄付金の活用結果を報告しました。

10月のホームカミングデーでは，現金寄付の受付を行い，寄付者の方から直接寄付金をお預かりしました。また，当日は休憩・交流スペースとして「サポーターズラウンジ」を開設し，寄付者の方々にご利用いただきました。

その他，寄付に関する情報や寄付者芳名等を掲載した「明治大学広報募金特別号」を9月と1月に発行し，全国の校友へ向けて送付しました。

イ 教育振興協力資金

本学の教育・研究の充実・発展に必要な経費として活用するための資金であり，主に学部学生，大学院生，専門職大学院生，法科大学院生の父母と明治高等学校・中学校の父母を対象に募集しています。

2018年度は459件，7900万1千円（前年度比約1191万円の増）の寄付を賜りました。

ウ その他の寄付金

2018年度は393件，3億3068万4469円（前年度比約1404万円の増）の寄付を賜りました。主な内訳は，学術研究奨励寄付金に約7802万円，国際交流基金に5000万円，校友会奨学金に2420万円，法曹会基金に約1352万円などです。また，校友のお名前を冠した募金として，文学部佐藤達夫教育研究振興基金に6000万円，兒玉圭司「願晴る」研究振興資金，文化・芸術振興資金，スポーツ振興資金に計5000万円の寄付を頂戴しました。

② 寄付者顕彰制度

本制度は，本法人に対する寄付金の総額に応じた顕彰を行うべく，2015年度に新しく制定された制度で，対象者は本法人が募集する各種寄付制度への寄付の累計額が100万円以上の個人となります。7月には，累計額500万円以上の方にお越しいただき，寄付者交流会を開催しました。

また11月には，特別紫紺賛助員（累計1億円以上の寄付者）、紫紺賛助員（累計1千万円以上の寄付者）をお招きし，本学の現状や将来像を説明し，本学の今後のありようについて助言をいただく場として，「寄付者アドバイザーボード」を開催しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/bokin/index.html>

2 教育改革と教学運営体制の整備

(1) 入学定員・収容定員を変更—2018年度入試から

2018年度から、入学定員・収容定員を変更しました。全学部合計で、入学定員は1,030人増の7,760人、収容定員は4,120人増の31,040人となりました。

(2) 総合的教育改革の推進—科目ナンバリング制度の導入

本学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバリングを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすることを目的として、科目ナンバリング制度を導入しました。

(3) 教育開発・支援センターの取り組み～新任教員研修

本学の教育理念などへの理解を促し、自己啓発意識を高めることなどを目的に、今年度採用された教員を対象とした「新任教員研修会」を2回にわたり開催しました。教学運営体制、明治大学の沿革、研究活動の現状、Oh-o!Meiji システムが創る新しい教育環境、入学試験の概要、就職キャリア教育などについて説明を行うとともに、人権講演会も実施されました。

(4) 内部質保証と I R (Institutional Research) 環境の整備・推進

① 自己点検・評価

2018年度自己点検・評価(2017年度報告書)は、自己点検・評価全学委員会委員長である学長から評価委員会委員長である理事長に12月に提出されました。これを受け、学外有識者等も加わる評価委員会を1月に開催し、本学における内部質保証システムの有効性や学修成果の可視化の適切性などを議論しました。その評価結果は、報告書の一部として本学ホームページに公開しています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/index.html>

また、自己点検・評価全学委員会では、2014年度大学評価結果等を基に「第3期改善アクションプラン(3カ年計画)」を策定し、2015年度から2017年度にかけて計画的に改善をはかり、その結果を「改善報告書」としてまとめ、7月に大学基準協会へ提出しました。

② I R データベースの整備・試行

2018年度は、TOEIC等の語学力データや「学びに関するアンケート」の回答データを I R データに連携させるなど、I R データベースの整備を行いました。

また、自己点検・評価で利用しているデータ等を元に、「学生、留学、入試、授業・教員、学修成果、進路」の6カテゴリーで構成するウェブページ「データで見る明治大学—Data from Meiji University」を作成し、公開しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/data/>

3 教育関連活動

(1) 学部・大学院の整備等

① 法科大学院の改革

2018年度から、法科大学院を「専門職大学院法務研究科」として専門職大学院へ統合するとともに、法務研究科の入学定員を120人から40人に変更しました。

- ② **哲学専攻の設置**

文学部心理社会学科に「哲学専攻」を新設しました。
- ③ **学部、大学院の開設等準備**

学長のもとで、新学部開設等について検討を行いました。
- (2) **教育内容・方法の見直しと成果指標の確立**
 - ① **大学全体の3ポリシー及び学部等の3ポリシーの検証**

策定した全学3ポリシーと、各学部が定める3ポリシーの連関について検証するなど、見直しの検討に取り組みました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/policy/aim.html>
 - ② **学習成果の測定方法**

すでに学習成果の測定が行われているプログラムの測定手法を参考に、学習成果の測定方法の開発に取り組みました。
- (3) **大学院の強化と充実**

科目ナンバリング制度の導入により、学部から大学院までのカリキュラムの体系化及び学部・大学院の接続・連携強化を促進しました。
- (4) **意欲ある学生の安定的な確保**
 - ① **時代の要請に対応する入試改革**
 - ア 2019年度入試から、全学部統一入試で「英語4技能試験」の活用を開始しました。
 - イ 「2021年度明治大学一般入試について（予告）」を公表し、「大学入学共通テスト」の利用などについてお知らせしました。
 - ② **附属校との連携**

附属校である明治高等学校と大学が合同で設置している委員会において、生徒の学部選択につながる高大連携事業の見直しに係る検討を行いました。
- (5) **大学間連携による教育の充実**
 - ① **法政大学、関西大学との3大学連携協力協定**

2017年9月に3大学間で連携協力に関する協定を締結したことを記念し、7月から約1か月にわたり、博物館にて特別展示「ボアソナードとその教え子たち」を開催しました。

また、11月から、3大学間で図書館相互利用に関する申合せが締結され、各大学図書館の相互利用が可能となりました。
 - ② **順天堂大学**

本学と順天堂大学は、教育・研究活動の交流と連携の推進を目的とした大学間交流に関する包括協定を2015年12月に締結しました。2018年度は、図書館の相互利用をはじめ、リバティアカデミーで包括協定締結記念講座「江戸・明治期の医学・医療の歴史—歴史を読み解く新たな視点—」（全8回）を開催しました。
 - ③ **聖マリアンナ医科大学**

2013年度に大学間交流に関する包括協定を締結した聖マリアンナ医科大学との共同研究会を2018年7月に実施し、両大学の共同研究に関する経過報告が行われました。

(6) 「明治大学アカデミックフェス 2018」の開催

「魅力ある社会をつくるための明治大学の次の一手」について、同時多発的に多様な領域をテーマとしたディスカッションを行い、新しい「知」の在り方を楽しく探るアカデミックフェスが11月に開催され、学生、研究者ら1,400人以上が駿河台キャンパスに来場しました。「e-sports」、「自動車自動運転社会」、「人工知能」、「VR」などをテーマに、本学教員をコーディネーターとした文理の枠を超えた20のプログラムが実施されました。

(7) 名誉博士号の授与

12月、『ジェンダー・トラブル』の著者であり、世界屈指の哲学者であるカリフォルニア大学バークレー校修辞学／比較文学科教授のジュディス・バトラー（Judith Butler）氏に明治大学名誉博士学位を贈呈しました。

(8) 国際日本学部創立10周年イベントの開催

11月、「多様な観点から見た日本と世界」をテーマに、国際日本学部設立10周年記念の一般公開イベントが中野キャンパスで開催されました。卒業生や在学生の他、高校生や一般市民も含めて、約950人の方にご来場いただきました。

4 研究関連活動

学長を機構長とする研究・知財戦略機構（以下「機構」という。）は、研究活動を統括し、世界のトップユニバーシティを目指し、世界的水準の研究を推進するため、研究拠点の育成、研究の国際化の推進、成果の社会還元、を目的としています。

2018年度においても機構の下に設置されている「研究企画推進本部」（研究政策の企画・立案から実施）及び「研究活用知財本部」（産官学連携活動を推進）を両翼とし、さらに附属研究機関・附属研究施設等において研究活動を推進しました。

各研究機関等における2018年度の主な研究活動は次のとおりです。

(1) 拠点型事業の獲得・発展・継続～各インスティテュート、研究センター等の活動

① 数理学の国際拠点～先端数理学インスティテュート（MIMS）

MIMSは、社会との関わりを重視した数理学の発展・普及を図ることを目的に社会と自然に係る現象の数理学的解析を課題とする国際的研究拠点です。文部科学省の認定を受けた共同利用・共同研究拠点「現象数理学研究拠点」として5年目を迎えたことに加え、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業「数理学する明治大学」の推進母体としての活動も3年目を迎えました。

2018年度も、公開シンポジウム、MIMS現象数理カフェセミナーや研究集会型・共同研究型等のイベントを開催しました。

※ <http://www.mims.meiji.ac.jp/index.html>

② クローンブタで医療に貢献～バイオリソース研究国際インスティテュート（MUIBR）

MUIBRは、農学、特にAnimal Biotechnologyを基盤に、次世代の医療技術開発に貢献する生物資源の創出・維持・活用を行うことを目的とした国際的研究拠点です。

2018年度も、人類の健康に直結する重要課題に取り組みました。

※ <http://muiibr.com/>

③ 国際武器移転史研究インスティテュート

8月に、国際武器移転史研究所を大学の付属研究機関である特別推進研究インスティテュートに昇格させ、「国際武器移転史研究インスティテュート」を開設しました。国際連携体制の構築による武器移転と軍縮・軍備管理の総合的歴史研究を目的とした、世界水準の研究拠点の形成を目指します。

2018年度は、国際シンポジウム、国際セミナーの開催や機関紙の刊行など、研究の成果を国内外に広く還元しました。

※ <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~transfer/>

④ 黒曜石研究センター

日本で唯一の黒曜石と人類史に関する研究施設である本センター（長野県小県郡長和町）は、機構の付属研究施設として「ヒト—資源環境系」という概念の下に、各種研究プロジェクトを立ち上げ、黒曜石を含む多様な資源に対する人類の働きかけのダイナミズムに関する研究を推進しています。2018年度は、紀要、資料・報告集、叢書の刊行など、積極的に研究成果発信を行いました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/cols/index.html>

⑤ 植物工場基盤技術研究センター

本センターは、経済産業省の平成21年度先進的植物工場施設設備費補助金事業の補助金を受けて設立されたもので、植物工場に関する研究開発・人材育成の全国8拠点の一つです（私立大学では本学のみ）。2018年度は普及活動の一環として、体験学習講座「植物工場でやさいを育ててみよう」の開催や、施設園芸・植物工場展2018（GPEC）への出展などを行いました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/plant/index.html>

⑥ 地域産学連携研究センター（生田連携センター）

本センターは、本学が有する技術シーズ・知的資産を有効活用し、川崎市をはじめとする神奈川県における新技術・新事業の創出、地域中小企業を育成する産学連携促進事業の実施、起業・経営セミナー等の開催、地域中小企業者・住民への施設の貸出し等の地域連携交流を促進することを目的としています。

2018年度も、積極的に経営支援セミナーを開催しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/cii/index.html>

⑦ 自動運転社会総合研究所

自動運転社会に向けた複合的な課題について、技術・社会・経済・地域に関する横断的な研究を通じて解決・改善策を探る学際的な研究組織として、同研究所を設立しました。

3月には、長崎県対馬市と共同研究事業等に関する連携協定を締結し、自動運転社会の実現による地域の持続的発展に寄与すべく、様々な課題の解決に向けて共同研究を推進することとなりました。

(2) 研究活動の適正化に向けた研究不正防止体制の整備

文部科学省のガイドラインに基づき、規程を定め、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施しています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/osri/guideline/compliance.html>

また、研究不正通報等の受付窓口を法律事務所に委託するとともに、防止計画推進部署として駿河台キャンパスに「研究倫理オフィス」を開設しています。

※ https://www.meiji.ac.jp/osri/ethics_office/outline.html

(3) 外部研究資金の獲得

公的資金を原資とする研究費を中心に、外部研究資金の獲得拡大に向けた支援を行っています。加えて、大学から予算措置される研究所研究費、大学院研究科共同研究、新領域創成型研究・若手研究、国際共同研究等があり、研究活動の推進・活性化を図っています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/research/promote/present.html>

また、インセンティブ付与制度の導入に向けて、検討を行いました。

① 公的研究費による研究受入実績

2018年度は、新規課題19件と継続課題35件、あわせて54件の研究課題を受け入れました。文部科学省所管の科学技術振興機構（JST）及び日本学術振興会（JSPS）からの研究課題が半数になりますが、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、日本医療研究開発機構（AMED）をはじめ、その他省庁及び資金配分機関からも幅広い分野で受け入れています。

② 2018年度「科学研究費助成事業」

本件の採択件数は新規と継続分をあわせて287件、金額は6億476万円でした。分野別ランキング「中区分別採択件数上位10機関」では、本学は「03. 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野」において9位（私立大学では2位）にランクインしました。

5 社会連携・社会貢献

(1) 社会連携機構 — 明治大学と社会をつなぐ架け橋 —

本学における教育研究活動を通じた地域連携活動の支援、生涯学習機会の提供等を推進することによって、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することを目的として設置されている機関が社会連携機構です。社会連携機構は、生涯教育の充実を図るリバティアカデミー及び地域連携を推進する地域連携推進センターから構成されています。

① リバティアカデミーの展開

リバティアカデミーは、公開講座を中心とした生涯教育及び資格取得等職業能力の再開発・向上を図るための教育活動の役割を担っています。2018年度も「本学の教育・研究成果」を広く社会に還元するため、継続的・体系的な公開講座を提供しました。また、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通して「開かれた大学」としての姿を追求してきました。駿河台、和泉、生田、中野キャンパス及び黒川農場の5拠点で、教養・文化、ビジネス、資格・実務、語学、特別企画、オープン講座等、年間約400講座を開講し、約1万6000名が受講しました。

※ <https://academy.meiji.jp/>

② 女性のためのスマートキャリアプログラム～女性の仕事復帰等を支援

2015年に開設した文部科学大臣認定職業実践力育成プログラム（BP）である履修証明プログラム「女性のためのスマートキャリアプログラム」は、現在までに約300人の修了生を輩出しています。昼間コース（女性の仕事復帰・キャリアアップを支援するプログラム）と夜間・土曜主コース（女性のキャリアアップ・リーダー育成を目的とするプログラム）が設けられており、2018年度も合計89名が修了し、新たなフィールドへ羽ばたきました。

※ <https://academy.meiji.jp/smartcareer/>

③ 地域連携推進センターの展開

地域連携推進センターは、本学が国・地方公共団体、産業界、地域住民等からの幅広い要請に応え、地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図ることにより、本学における教育研究の発展と地域社会への貢献に寄与することを目的としています。創立者出身地3地域（鳥取県、同県鳥取市、山形県天童市、福井県鯖江市）やキャンパス設置自治体をはじめ、様々な自治体等と連携して公開講座を開催するなど、地域活性化のための連携事業を展開しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/social/japan/chiikirenkei/chiikirenkei.html>

(2) 図書館、博物館の充実

① 4キャンパスの図書館

本学の教育・研究支援の中核機関であるとともに、生涯学習時代における社会貢献の拠点として活動を行っています。

2018年度も、読書に一層興味を持ち、図書館を積極的に活用してもらうことを目的として、「図書館書評コンテスト」などが開催されました。

※ <http://www.lib.meiji.ac.jp/>

② マンガ図書館

マンガ、アニメ等の資料を収集し、これを公開することを目的として設置され、米沢嘉博記念図書館（東京都千代田区神田猿樂町）及び現代マンガ図書館（東京都新宿区鶴巻町）をもって構成されています。2018年度も広く社会に公開（有料）するとともに、企画展やトークイベントなどを開催しました。

ア 板垣巴留トークイベント

イ 米沢嘉博の「戦後怪奇マンガ史」展～怪奇・恐怖マンガの系譜 1948-1990～

ウ 魔夜峰央原画展 ほか（多数）

※ https://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/index.html

③ 博物館

本学の教育・研究成果を社会に還元する学内共同利用機関として、学内外の諸機関等と連携した展覧会、公開講座等多彩な教育・普及活動を展開しており、年間来館者は10万人を超えています。2018年度には、2004年のリニューアルオープン以降の累計来館者数が100万人に達しました。

2018年度は、特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」及び展示会「新収蔵・収蔵資料展 2018」、「明大考古学の過去・現在・未来」、「地方創生の機運－1970～80年代の伝統的工芸品収集－」等を開催しました。

その他、特別講演会、公開特別講義、南山大学との収蔵資料公開展示などを実施しました。

その他、博物館機能の拡充・強化の一環として、「ICTミュージアム（仮）」の実現に向けてそのデジタルコンテンツの充実・強化に取り組みました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/museum/index.html>

(3) グローバル連携の推進

本学は2010年度から国連アカデミック・インパクト(UNA I)に参加しています。また、持続可能な17の開発目標(SDGs)の達成に向けて、2018年度も難民学生の受入れや、UNHCR難民映画祭の開催、多様化する地球規模の課題に対応・解決できる人材の育成を目的とした「国際協力人材育成プログラム」を実施するなど、多角的な取り組みを行いました。

① 「国際協力人材育成プログラム」

本学及び立教大学の学部学生に向けて、全て英語により展開する共同教育プログラムです。2大学の持つ教育リソースと、世界的な評価が高い大学院大学である国際大学が、国際協力に関する教育資源を提供し、国際協力・国際公務分野を目指す人材、「国際協力人材」を育成するプログラムです。

② UNHCR難民高等教育プログラム特別入学試験

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)及び国連UNHCR協会との協定に基づき、難民を対象とした入学試験を実施しています。学部学生として高等教育の機会を提供することにより、当該学生が高い教養と専門性を身につけ、国際社会において平和の構築や社会の発展に寄与することを目的としています。

③ クレヘンビュールUNRWA事務局長が講演

12月、パレスチナ難民に教育や医療の支援を行う国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のピエール・クレヘンビュール事務局長が、「激動する中東：未曾有の危機と向き合うUNRWA」をテーマに講演を行いました。

(4) 環境保全に配慮した大学の運営

2018年度も、環境保全にかかわる教育活動の一環として、教職員・学生へ環境問題・環境保全にかかわる情報とともに、本学の環境保全活動を紹介し、関心を高めるため、「ECO ACT MEIJI 明治大学環境展」を4キャンパスで開催しました。パネル展示、資料配布、環境に配慮した施設見学ツアーを実施し、地球温暖化、エネルギーなど、私たちを取り巻く環境問題や、本学の環境保全への取り組みについてわかりやすく解説しました。

(5) 震災等復興支援

これまでの震災被災地の復興支援に特化して携わってきた「震災復興支援センター」から、「震災等復興活動支援センター」に名称を変更し、本学が指定した地震、暴風、豪雨、洪水等の自然災害における被災地及び被災者の復興活動に支援対象を拡大することとなりました。現在は、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の被災地域をセンターの支援対象としています。

2018年度も、「震災復興に関する協定」を締結している自治体(福島県新地町、宮城県気仙沼市、岩手県大船渡市)からの要請に基づく事業や、学生による復興ボラン

ティア活動の支援等、様々な取り組みを行いました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/reconstruction/index.html>

① 宮城県気仙沼市で「アクティブ・ウーマンズ・カレッジ」への協力

アクティブ・ウーマンズ・カレッジは、市民を対象とした気仙沼市主催の人材育成講座で、震災等復興活動支援センターが企画・コーディネートに協力しました。本学専任教員が講師を務め、女性 27 人が受講しました。

② ホームカミングデーで「防災キッズワークショップ」開催

第 21 回ホームカミングデーにおいて、親子で楽しみながら防災・減災について学ぶワークショップを実施し、約 110 名が参加しました。

③ 震災等復興支援ボランティア活動に対する助成金

復興支援ボランティア活動を行った学生に対し旅費の一部を助成する制度です。2018 年度は、センターの支援対象を拡大したことに伴い、助成金の対象となる地域を広げ、学生が主体的にボランティア活動に取り組めるよう制度を充実しました。

6 国際化の推進

2018 年度も、世界に羽ばたき、社会と世界をリードする人材教育の実現を目指して、国際化に関する取り組みを積極的に推進しました。

(1) 「スーパーグローバル大学創成支援」事業（SGU）

本学の取り組み「世界へ！ MEIJI8000 -学生の主体的学びを育み、未来開拓に優れた人材を育成-」が、2014 年に文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプ B 「グローバル化牽引型」に採択されました。これを受け、2018 年度も「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓くグローバル人材（卒業生毎年 8,000 人）」を世界に送り出していくべく、積極的に事業を推進しました。

(2) 「大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」

文部科学省・平成 28 年度（2016 年度）「大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」のタイプ B （ASEAN 地域における大学間交流の推進）に、本学の構想「CLMV の持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造」が採択されました。

本構想では、急速な都市化に伴う諸課題について CLMV 諸国の実態や実状に鑑み、日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造することを目的としています。

2018 年度も、政治経済学部、理工学部建築学科・理工学研究科建築・都市学専攻及び情報コミュニケーション学部を中心に CLMV・ASEAN 連携大学の教員・学生をタイのアセアンセンターに招聘し、「共創FDワークショップ・CLMV 学生会議」を開催するなど、積極的な活動を実施しました。

(3) 戦略的提携校政策

① 協定校・協定機関の拡充

海外の大学等との協力・協定については、2018 年度も積極的に新たな協定を締結し、2019 年 3 月末時点での協定校・協定機関数は、学部間等協定も含め、54 カ国・

地域、342 大学・機関・部局等となりました。

② カリフォルニア大学サマーセッション

本プログラムは、明治大学における春学期及び夏季休業期間の約 12 週間、米国西海岸の名門校・カリフォルニア大学に留学し、「Summer Sessions (夏学期)」の正規授業を履修する留学プログラムです。2018 年度はUCB (バークレー校), UCLA (ロサンゼルス校), UCI (アーバイン校) の 3 校に合計 44 名が参加しました。

(4) 外国人留学生の受入れ・学生の海外送出し強化

2018 年度の外国人留学生を受入れ数は 2,275 名 (学部: 1,245 名, 大学院: 596 名, 短期プログラム: 434 名), 海外送出し留学生数は 2,141 名 (長期: 479 名, 短期: 1,662 名) となりました。

優秀な海外からの留学生を獲得するために、入口から出口までの一貫した支援政策に基づき、Web 出願、日本語 e ラーニングにおけるコンテンツの充実、戦略的広報のための Web ページの活用、魅力あるカリキュラムの整備、就職支援プログラムなどを展開しました。

海外留学を目指している学生には、留学カウンセリング、経済的支援、留学説明会・報告会など、多様な支援を実施しました。

① 「留学志望者対象英語プログラム」始動

2018 年度から、留学に必要な語学力の強化を目的とした 4 つのプログラム (「カランメソッド」「TOEFL Skills I / II」「IELTS 直前講座」「Writing & Academic Skills」) を開講しました。これらプログラムの他、TOEIC・TOEFL 認定インストラクター (国際連携機構特任教員) による英語学習の個別相談「英語学習アドバイジング・オフィスアワー」や、1 レクチャー約 2 分間の英語学習レクチャー動画「English Learning Tips (ELT) Movies」の配信等、充実した学習支援体制も提供しました。

② 「国際化サポート海外留学奨励金」制度の新設

2018 年度から、明治大学生の海外留学挑戦を支援するため、「国際化サポート海外留学奨励金」制度を新設しました。本奨励金制度では、「未来サポーター募金 (国際化サポート資金)」を原資とし、国際教育センターが実施する支援対象プログラムに参加する学生に対し、助成金を支給します。申請要件を満たせば、留学前に本奨励金を受給できるため、海外留学の経費計画が立てやすくなります。

③ 海外トップスクールへの留学～「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」

2017 年度に創設された「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」のうち、特に高い成績・語学要件が求められる【留学奨励助成金 S】(300 万円を上限に支給) の対象大学・留学プログラムに、学生 6 人が留学しました。6 人は、スタンフォード大学、ペンシルベニア大学、ハーバード大学などが主催する、世界各国から優秀な学生が集まる難関プログラムに参加し、それぞれ世界トップレベルの授業を体感しました。(留学期間は約 2 カ月～1 学年間)。

(5) 海外拠点

国際連携を積極的に推進するため、海外拠点としてマレーシア事務所、北京事務所及び明治大学アセアンセンター (タイ・バンコク) を設けています。

「明治大学アセアンセンター」は 2012 年度に採択された文部科学省「大学の世界展

開力強化事業－ASEAN諸国等との大学間交流形成支援」事業の「日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダープログラム」及び2016年度採択の「CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造」の展開拠点として活用されているほか、昨年度に引き続き遠隔授業、短期学生交流プログラムなどを実施しました。

① アセアンセンターでオープンデーを開催

タイの高校生らに対して明治大学の魅力を知ってもらおうと11月の2日間、アセアンセンターでオープンデーが開催されました。約300人が同センターを訪れ、明治大学のPRや留学説明等を実施。タイ人の明治大学への交換留学経験者有志がボランティアとして、訪問者の対応にあたりました。

(6) 短期受入れプログラム

2018年度も海外の学生に長期休暇を利用して日本国内で日本を学んでもらえるよう、下記の3つのプログラムを実施しました。目的別に日本語、日本の法律、そして日本の文化(ポップカルチャーと伝統文化)、様々な体験学習と講義を組み合わせた充実したカリキュラムを用意し、短期間でも満足してもらえる内容となっています。

なお、多くの応募者があるため、受入れ枠拡大に向けた検討を始めました。

① 日本語短期研修プログラム(夏期・冬期)

※ <https://www.meiji.ac.jp/cip/english/programs/mjlp/jp/index.html>

② Law in Japan Program

※ <https://www.meiji.ac.jp/cip/english/programs/law/index.html>

③ Cool Japan Summer Program

※ <https://www.meiji.ac.jp/cip/english/programs/cooljapan/jp/index.html>

(7) フィリピン・エンデラン大学と大学間協力協定を締結

6月に、エンデラン大学と大学間協力協定を締結するとともに、本学学生の英語のスキルアップのため、同大学マッキンリーヒルキャンパス内に、「明治大学マニラ英語トレーニングセンター」を設置することで合意しました。

その他の取り組みとして、同大学で「英語発話力向上プログラム」(3週間・6週間)(本学とエンデラン大学が共同で開発した明大生の英語スピーキング・スキルの向上のためのプログラム)が開催され、夏季・春季合わせて72人が参加しました。

(8) ラテンアメリカとの関係強化へ～ブラジルへマンガ寄贈

現地の若者を中心に興味関心の高い日本のマンガをきっかけとして、ラテンアメリカ諸国との関係強化につなげることを目的に、ブラジル日本文化福祉協会やサンパウロ大学など6機関へ、計3,450冊のマンガを寄贈しました。これは、本学が推進する「ラテンアメリカプロジェクト」の一環として実施されたもので、マンガを起点とした教育・研究の振興と国際連携のさらなる推進が期待されています。

7 学生支援

(1) 奨学金の充実

将来の有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、奨学金制度に基づき、給費奨学金・貸費奨学金等各種奨学事業を実施しました。

なお、さらに奨学金給付を最適に実施できるよう、各種制度変更や関係校規の改正も行いました。

災害に対する奨学金としては、北海道胆振東部地震、平成30年7月豪雨などの被災者への給費型奨学金による経済支援（明治大学災害時特別給費奨学金）を実施しました。

(2) 学生参加型プログラムへの支援

① ボランティアセンター（VC）

4キャンパスに設置されているボランティアセンターは、本学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養して、社会に有用な人材を育成することを目的としています。

駿河台キャンパスでは「防災」、和泉キャンパスでは「福祉」、生田キャンパスでは「サイエンス」、中野キャンパスでは「社会連携」をそれぞれテーマとし、学内・学外での活動、地域との交流、復興支援など、特色ある活動を展開しました。

ア 災害救援ボランティア講座（駿河台VC）

イ 「福祉会館まつり」への参加（和泉VC）

ウ 「かわさきサイエンスチャレンジ」への出展（生田VC）

エ all なかの防災ボランティア体験デー（中野VC）

※ <https://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>

② M-Navi プログラム (Meiji Navigation Program) の推進

学部や学科で学び身に付けていく「基礎学力」や「専門知識」に加えて、それらを上手に活用していくための「力」（社会人基礎力）を身につけるためのナビゲーターの役割を果たす学生支援プログラムの一つです。

2018年度は、「神宮へ行こう（東京六大学野球観戦）」、「レトロモダンTOKYO～150年目の東京散策～」、「カジュアル茶道を体験しよう」、「宝塚とキャリアデザイン～将来の自分を見つめて～」等のプログラムを実施しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/campus/mnp/6t5h7p00000hfuo7.html>

③ シェイクスピアプロジェクト

11月、学生がシェイクスピア劇に挑む「シェイクスピアプロジェクト」の第15回公演『ヴェニスの商人』が開催されました。3日間全5回公演に、過去最高の4,500人以上が来場しました。

(3) 学生相談室の活動

相談内容の約3分の2が精神衛生に関わるものであるとともに、SNSのトラブルに関する相談など社会情勢の変化を反映して相談内容も多様化・複雑化していることから、学生相談機能の拡充を図っています。

また、憩いの場や交流の場の提供・心身の健康増進などを目的として、「ボイストレーニング～ピュアボイスに出会い、心身のバランスを整えよう～」、「片付けのコツをプロに聞いてみよう！～一人暮らしを始めたあなたへ～」、「時間管理ワークショップ～スケジュール帳活用法～」、「お裁縫workshop」等、各種行事を開催しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html>

(4) 観る人に感動を～スポーツ関係

① ラグビー部

ア 1月、第55回全国大学ラグビーフットボール選手権大会で優勝。1997年以来、22年ぶり13回目となる大学日本一の座に。

イ 6月、関東大学ラグビー春季大会で初優勝



② サッカー部

ア 総理大臣杯で2年ぶり2度目の優勝

イ 8人がJリーグ加入へ

③ 第18回アジア競技大会 明大勢が10種目でメダルを獲得

ア 競泳／水泳部の松元克央選手（政経4）と溝畑樹蘭選手（政経2）が共に出場した男子4×100mリレー、男子4×200mリレーで金メダルを獲得

イ ボート／端艇部の高島美晴（政経3）、瀧本日向子（商4）が、軽量級女子ダブルスカルで4位入賞

④ 硬式野球部

ア 春季リーグ戦：第3位、秋季リーグ戦：第4位

イ 渡邊佳明選手（政経4）が東北楽天ゴールデンイーグルスから6位指名を受けました。また、OBからも1名指名を受けました。

⑤ 輝かしい活躍

ア 水泳部 インカレ男子総合4連覇

イ スケート部 インカレ男子総合3連覇

ウ 拳法部 全日本学生拳法選手権大会で優勝、インカレ7連覇

エ ソフトテニス部 第72回全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会（男子）で初優勝、全日本ソフトテニス選手権大会ダブルス女子で宮下こころ選手（経営1）が優勝

オ 柔道部 全日本選抜体重別選手権大会で小川雄勢選手（政経4）が優勝（男子100kg 超級）

カ 剣道部 第52回全日本女子学生剣道選手権大会で藤崎薫子選手（経営3）が優勝

キ 弓道部 第66回全日本学生弓道選手権大会女子個人戦で白川史織選手（経営4）が優勝

ク レスリング部 平成30年度全日本学生レスリング選手権大会フリースタイル97kg級で二ノ宮寛斗選手（経営3）が優勝

ケ バドミントン部 第69回全日本学生バドミントン選手権大会女子ダブルスで上杉夏美選手・鈴木成美選手ペア（ともに商2）が優勝

コ 自転車部 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会個人ロードレースで野本空選手（政経4）が優勝

サ 射撃部 2018年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会で2年ぶりの女子総合優勝

シ ボードセーリング部 2018年度全日本学生ボードセーリング選手権大学対抗

戦で22年ぶりの優勝

(5) 就職・キャリア形成をバックアップ

① 就職キャリア支援センター

本学の学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養して主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的としています。

2018年度も「就職進路ガイダンス」、「エントリーシート対策講座」、「業界研究セミナー」、「OB・OG懇談会」等を実施しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html>

② インターンシップの充実

本学のインターンシップは、ALL MEIJI インターンシップ、自己開拓型インターンシップ（大学経由応募型と直接応募型）と大きく分けて3つ種類あります。ALL MEIJI インターンシップは本学と受入機関の間で協定を結んだ上で実施しており、2018年度も多数の企業等の協力を得て実施しました。

また、グローバル人材に求められる力を学ぶ機会として、海外インターンシップをインドネシア・ジャカルタで実施し、学生20人が参加しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/shushoku/intern/index.html>

③ 外国人留学生への就職サポート

日本国内で就職を希望する留学生に特化した就職支援を手厚く行っています。2018年度も、日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」をはじめ、様々な講座を開催しました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/shushoku/ryuugakusei.html>

8 男女共同参画と平等の実現

「明治大学男女共同参画推進基本計画」の実現に向け、様々な施策を推進するとともに、本学のすべての構成員が「違い」にかかわらず、キャンパスのあらゆる場において平等に活動し、尊重される環境の整備に取り組みました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity/>

(1) ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

多様な価値観を受容し、共に学び共創する大学を目指し、「明治大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公表しました。

あわせて、本学の「性に関する多様性」、「身体機能の多様性」及び「文化的な多様性」に関わる主な関係部署が一堂に会し、相互の連携・協調を図る場として、「ダイバーシティ&インクルージョンプラットフォーム協議会」が設置されました。同協議会では、ダイバーシティ&インクルージョンの普及（広報・啓発、年間活動報告等）並びに質保証（制度改革、相互評価等によるPDCAサイクル等）に関する連携・協調を図っていきます。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity-and-inclusion/index.html>

(2) 意識改革と理解促進

1月に、ジェンダー研究を専門とする講師を招き、法人役員・大学役職者、事務管

理職者等を対象とした学内講演会「男女共同参画が問いかけるもの～女性の視点・男性の視点～」を開催し、「オール明治」として取り組むべき男女共同参画の課題等について当事者意識の向上を図りました。

(3) 次世代の女性研究者育成

次世代の女性研究者育成につなげるため、中野オープンキャンパス及び附属中野八王子中学校・高等学校において「女子大生による理系進路フォーラム」を開催し、女子中高生の理系進路選択について理解を深める機会を提供しました。

(4) 障がい学生支援の推進

障がいのある学生の修学支援の推進及び障がいに対する理解の促進等を図ることにより、障がいのある学生に対して開かれた大学を目指し、「明治大学障がい学生支援に関する規程」及び「明治大学障がい学生支援基本方針」を制定・施行しました。

9 入学試験関連

(1) 2019 年度入学試験志願状況

一般入学試験の志願者数は、一般選抜入学試験 58,257 人、全学部統一入学試験 21,776 人及び大学入学センター試験利用入学試験 31,722 人の合計 111,755 人となり、3 年連続で 11 万人を超えました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/exam/index.html>

(2) イベント関係等

① 2018 オープンキャンパス～高校生が“メイジ”を体感～

受験生等に向けてキャンパスを開放し、大学生活の一端を体験してもらう「オープンキャンパス」を、駿河台・中野の2キャンパスで8月に計5日間開催し、約4万5000人の高校生やその保護者らが本学を訪れました。(生田キャンパスでの開催は、台風接近のため中止となりました。)

※ <https://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampus/index.html>

② 出張オープンキャンパス～明治大学フェスタ！の開催

2018 年度も全国 6 都市（札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡）において、出張オープンキャンパス「明治大学フェスタ！」を開催し、入試説明会のほか、地元出身の現役明大生による相談コーナー等を設け、本学の魅力を伝えました。

(3) 2021 年度一般入学試験について

大学入学共通テストの実施などに伴い、本学の 2021 年度一般入学試験にかかる情報を公開しました。

① 「大学入学共通テスト」利用入試（仮称）を、全学部で実施します。

② 「大学入学共通テスト」の英語における英語外部 4 技能試験は、2021 年度入試については、全学部で活用しません。

③ 主体性等の評価について、2021 年度入試では、JAPAN e-Portfolio は利用しません。なお、Web 出願時に高校時代の主たる活動等を入力していただき、そのデータは、一般入試においては得点化せず、入学後の指導上の参考資料として利用します。

1.0 卒業・修了の状況

本学は、130年を超える歴史と伝統の中で、創立以来56万人を超える卒業生を輩出してきました。

2018年度は、各学部の卒業生7,323名（うち9月卒業229名）、大学院の修了生は博士前期課程725名（うち9月修了6名）、博士後期課程45名（うち9月修了1名）、専門職学位課程225名（うち9月修了62名）、高等学校・中学校の卒業生461名（高等学校288名、中学校173名）となりました。

1.1 教育研究環境の整備

本学のより一層の発展に寄与するため、教育研究環境の整備等を行いました。

引き続き、教学の要望、既存校舎の劣化度合、財政的支出のバランス、外的環境等を総合的に勘案しながら、教育施設、研究施設、学生環境の整備を推進します。あわせて、安全かつ高度な教育研究環境を守るため、既存施設の修繕、改修を適切に実施していきます。

1.2 学校法人の管理・運営

(1) 創立140周年記念事業実施に向け始動

2021年に迎える140周年を記念した事業や各種行事を実施することを目的に、「明治大学創立140周年記念事業実行委員会」を設置し、検討をスタートしました。

同委員会において、記念式典及び祝賀会を、本学の創立記念祝日である「2021年11月1日」に挙行することを決定するとともに、実施計画基本方針（「1.本学が21世紀の活力の中心となるような存在感を示す周年記念事業を実施する」「2.創立150周年に向けた新たな長期ビジョンを公表する」）を定めました。

今後は、同委員会及び同委員会に設置された分科会において、本格的に記念事業の検討を進めます。

(2) 格付投資情報センターから「AA」の格付を取得

4月に、株式会社格付投資情報センター（R&I）から2回目の格付評価を受け、昨年と同じ「AA」[格付けの方向性：安定的]でした。これは、本学の持つ教育・研究の質の高さと学生募集力、就職実績、卒業生の厚み、国際化推進・教育力の向上を目的とした改革への取り組みなどが総合的に評価されたものです。

(3) 情報基盤整備及び教育研究支援

① ネットワーク構成の見直し

データセンター移転及びインターネット回線帯域の増速（1Gbps→10Gbps）を行うと同時に、新データセンターから拠点間ネットワークへの接続回線帯域の増速（2Gbps→3Gbps）を行いました。また、情報基盤への要望に応じて、学内ロビー、ラウンジ、会議室等に無線LANアクセスポイントを増設しました。

② 遠隔同時配信システム「Zoom」の導入

多様なラーニングスタイルを受容する学びの場の創出を支援するため、遠隔同時配信システム「Zoom」を導入しました。同システムの利用により、キャンパス間における同時中継授業の実現が可能となりました。2018年度は試験的に運用しま

したが、今後は活用推進と利用の簡素化、「Zoom」を用いた他大学との共創的活動を推進する予定です。

③ メディア授業の充実

2018年度は、e-meiji システムを利用し、経営学部、情報コミュニケーション学部、会計専門職研究科、司書講習（社会人対象）及びリバティアカデミーにおいてメディア授業が実施されました。

④ デジタルコンテンツの発信

2018年度もフォーラム・セミナー・イベント等を収録の上、大学HPやPodcastを通じて積極的に公開しました。

⑤ オンライン採点入力システムの導入

2018年度から、Web採点入力システムを一部の科目に導入し、従来の採点表の配送を電子化することでセキュリティ向上、成績処理のスピードアップを図りました。

(4) 防火・防災・危機管理体制関連

① 防災対策

大規模災害の発生等を想定し、学生用・教員用・職員用といったカテゴリーごとの災害発生時対応マニュアルに基づき、駿河台・和泉・生田・中野の各キャンパス、黒川農場及び明治高等学校・中学校において防災訓練等を実施しました。

② 情報システムにおけるセキュリティ対策の強化

教職員を対象に、標的型攻撃メール対策トレーニングの実施や、セキュリティ対策及び個人情報保護に関する講習会等を実施し、サイバー攻撃に対する予防策及び被害が発生した際の対処方法について知識レベルの向上を図りました。

③ 危機管理広報の対応

大学役員・役職者や事務管理職らを対象に、大学に関わる事件・事故や不祥事の発生時に、的確な広報対応が取れるよう、日頃からの意識向上を目的とした「危機管理広報セミナー」を開催しました。2018年度は、外部講師を招いて、「法とコンプライアンスの観点から見る不祥事における初動対応の重要性」をテーマとした講演が行われました。

(5) 付属校・系列校政策

法人の健全な運営及び教育研究活動の永続的な発展のためには、学生の「数」と「質」の確保が不可欠です。学生の「数」と「質」の確保に向けた方策のひとつとして付属校・系列校政策が重要である、との認識を共有し、付属校・系列校強化推進について具体的に検討を行ってきました。推進にあたっては、学校種、立地、規模、設置形態等の課題について慎重に見極めながら、あらゆる可能性を視野に入れた検討を継続しました。

① 日出国園（千葉県市川市）と協定を締結

日出国園高等学校と高大連携事業に関する協定を締結するとともに、法人間では、「連携推進協議会」を設置しました。高大連携事業によって相互理解を深め、同時に、双方で行う連携・協力事業に関して協議を進めました。

(6) 事務組織の改善・検討

2019年度の事務組織改善を決定し、諸規定の改正等を行いました。

- ① 入学センター事務部の設置
- ② 管財部の設置

1.3 附属高等学校・中学校

(1) 国際教育の推進及び特色ある教育の実現

① ヨーク大学（カナダ）3ヵ月海外研修スタート

2018年度から、高校3年生を対象としたヨーク大学への3ヵ月海外研修をスタートしました。13名の生徒が、主にヨーク大学附属英語学校（YUELI）のアカデミック・プログラムを受講し、英語や異文化体験に加えて、大学での学問的な取り組みの基礎を学びました。

② 海外語学研修の実施

2018年度も長期休暇を利用した海外語学研修を夏・春の2回実施しました。

③ 国内英語研修の実施

2018年度、新たな研修として、明治大学清里セミナーハウスにおいて、3泊4日の国内英語研修を実施し、15名の生徒が参加しました。

④ 「スピーチコンテスト」「イングリッシュ・プレゼンテーション」を開催

2018年度も、英語による「スピーチコンテスト」及びパワーポイントを使った「イングリッシュ・プレゼンテーションコンテスト」を開催しました。これらの行事では、英語による発信力強化を図るとともに、入賞者には「鶴澤聡明教育振興・奨学金プログラム」奨学金が給付され、海外語学研修及び海外文化体験プログラムに参加しました。

⑤ 中学生イングリッシュキャンプの実施

福島県のブリティッシュ・ヒルズにおいて、中学生を対象とした2泊3日の研修を実施し、英語や英国文化を学びました。41名の生徒が参加しました。

⑥ 海外からの学校体験・ホームステイ受入れ

2018年度はカナダから15名の高校生が1週間、スウェーデンから2名の高校生が1週間、学校体験のために来校し、その間本校生徒の自宅にホームステイをしました。

(2) 高大連携の推進

① 高大連携講座

高校2年生に対して、志望学部選択や明治大学進学後のスムーズな講義受講に資するよう、明治大学の教員が調布キャンパスで年間を通して各学部の基礎的な内容の授業を実施しました。

② プレカレッジプログラム

高校在学中（高校3年生対象）に明治大学の授業の一部を受講し、修得した単位が、明治大学入学後に学部卒業要件単位として認定される制度を2018年度も実施しました。

③ サマーセミナー， スプリングセミナー， ウィンターセミナー

明治大学と連携し、資格の取得、英語力の向上、進路決定の参考等の目的で、夏期休暇、春期休暇及び高校3年生の最終学期に集中講座として実施しました。「法曹

入門講座」「TOEIC 講座」「簿記講座（2級・3級）」「実験講座（化学・物理）」「コンピュータプログラミング講座」なども、明治大学の各キャンパスや本校で実施しました。

④ **キャリアクエスト講座**

2018年度から、生徒に早い段階で自らのキャリアを形成することを支援する取り組みとして、「キャリアクエスト講座」を創設しました。高校1～3年生を対象に、留学に関する講座などを実施しました。

(3) **「卒業生顕彰式」を挙**

これは、本校を卒業後、学術・文化・芸術などの分野で活躍し、優秀な成果を収めた卒業生を称え、在校生の模範となるよう顕彰するもので、明治大学の学部長奨励賞を受賞した現役明大生や公認会計士試験の合格者など卒業生25名を表彰しました。

以 上

参考資料

(1) 海外協定校(2019年3月31日現在)

大学間協定締結校数(国別)

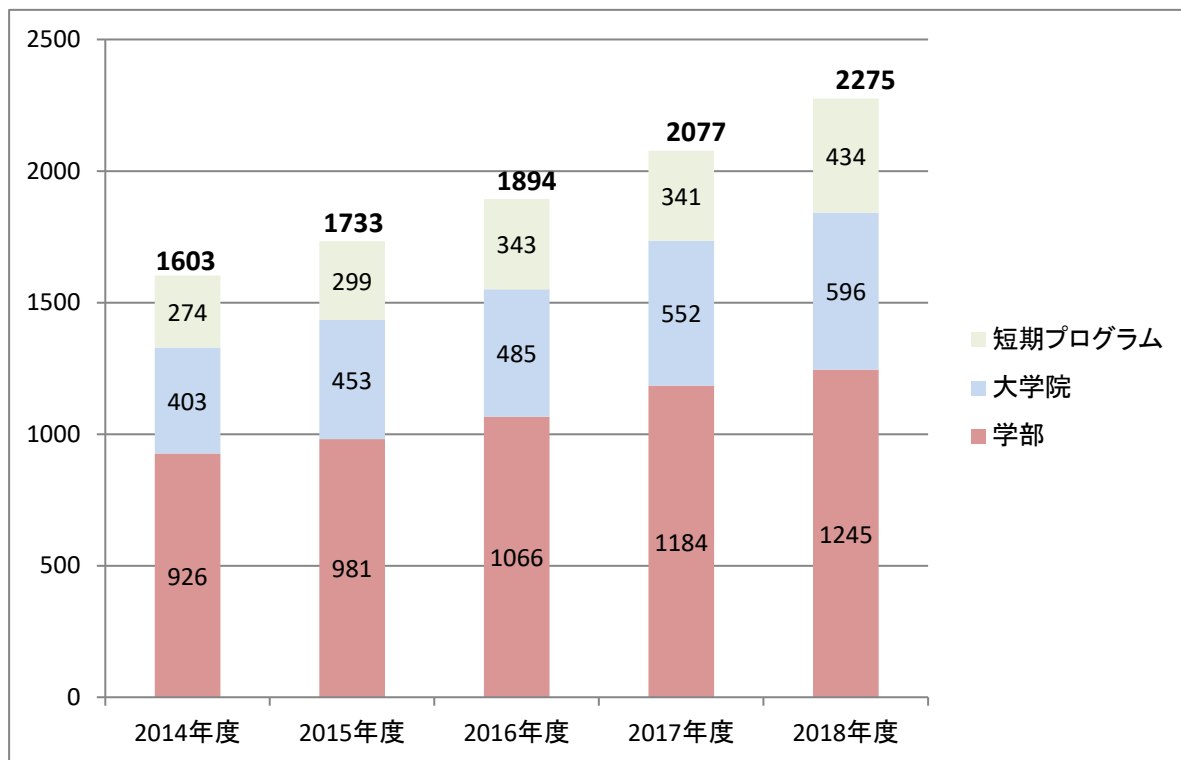
国名	学生交流の有無		総計
	なし	有り	
アルゼンチン		1	1
イスラエル	1		1
イタリア		6	6
インド	4	2	6
インドネシア	2	2	4
ウクライナ	1		1
オーストラリア	2	6	8
オーストリア	1	2	3
オランダ		1	1
カナダ	1	5	6
カンボジア	2		2
ギリシャ	1		1
コロンビア		3	3
サウジアラビア	1		1
シンガポール		1	1
スイス		1	1
スウェーデン		2	2
スペイン	2	3	5
スリランカ		1	1
セルビア		1	1
タイ	5	2	7
タンザニア	1		1
デンマーク		1	1
ドイツ	1	4	5
トルコ	1	1	2
ノルウェー		1	1
ハンガリー		1	1
バングラデシュ	1		1
フィリピン	3	1	4
ブラジル		3	3
フランス	2	15	17
ブルガリア		1	1
ベトナム	5	3	8
ベルギー	1	1	2
ポーランド		2	2
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2		2
マケドニア	1		1
マレーシア	1	5	6
ミャンマー	2		2
メキシコ		3	3
モンゴル	1		1
ラオス	1		1
リトアニア	1	1	2
ルーマニア		2	2
ロシア	4	5	9
英国	5	6	11
韓国	5	16	21
台湾	6	8	14
中国	6	16	22
中国(香港)		1	1
米国	5	42	47
総計	78	178	256

部局間協定締結校数(国別)

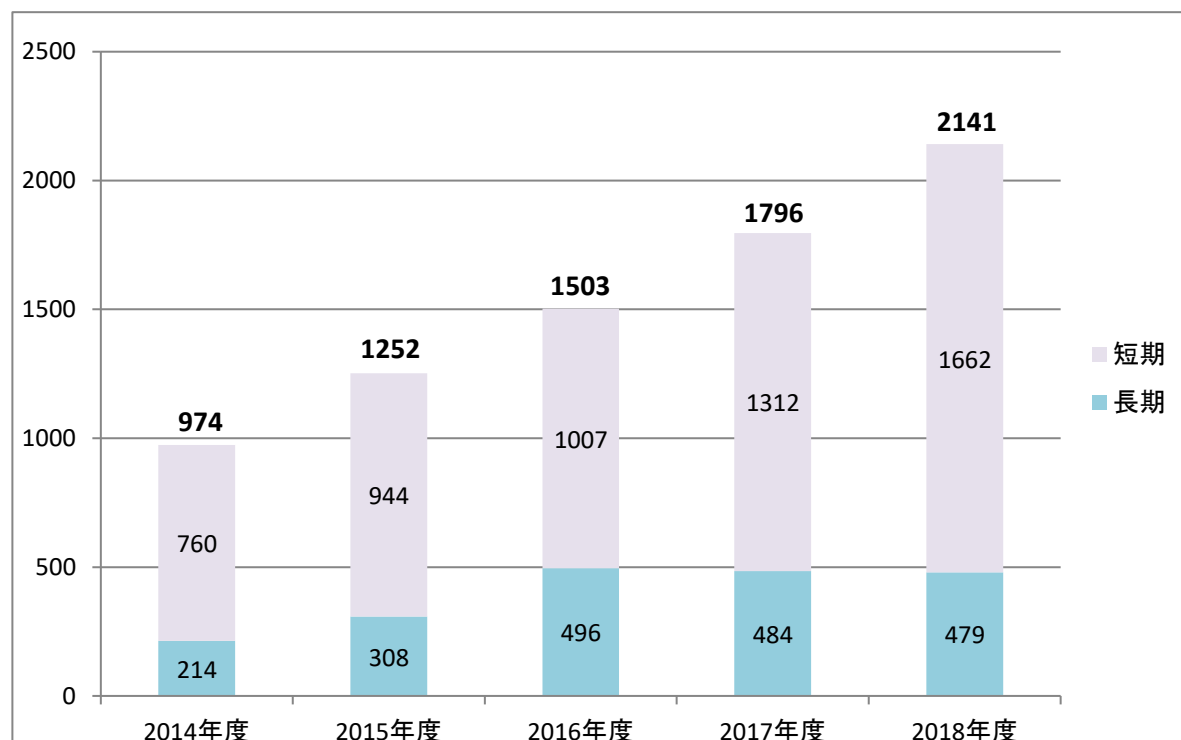
国名	学生交流の有無		総計
	なし	有り	
イタリア	2		2
インドネシア		3	3
オーストラリア		2	2
オランダ		1	1
カナダ	1	2	3
シンガポール		2	2
スウェーデン		2	2
スペイン	1	2	3
タイ	2	7	9
ドイツ	1	7	8
ニュージーランド		1	1
フィリピン	1	1	2
フィンランド		1	1
ブラジル		1	1
フランス	1	11	12
ベトナム	3	6	9
ベルギー	1		1
ポーランド	1		1
マレーシア	1	1	2
ラオス		1	1
ロシア	2		2
英国	1	4	5
韓国	1	6	7
台湾	3	5	8
中国	2	8	10
中国(香港)		1	1
南アフリカ	1		1
米国	1	22	23
総計	26	97	123

(2)外国人受入留学生数及び海外派遣留学生数

①外国人受入留学生数



②海外派遣留学生数



(3)2019年度 入学試験結果

① 一般選抜入学試験

学部・方式・学科(専攻)	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			満点	合格最低点	合格最低得点率	競争率 受験者/合格者		
		計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子						
法学部		375	3,984	2,779	1,205	3,395	2,367	1,028	721	510	211	350	260	74.3	4.7	
商学部	一般選抜方式	485	8,783	6,300	2,483	7,661	5,482	2,179	1,136	814	322	350	288	76.6	6.7	
	英語4技能試験活用方式	15	749	413	336	649	356	293	112	64	48	550	418	76.0	5.8	
	計	500	9,532	6,713	2,819	8,310	5,838	2,472	1,248	878	370				6.7	
政治経済学部	政治学	105	1,547	1,127	420	1,437	1,053	384	465	351	114	350	251	71.7	3.1	
	経済学	290	3,636	2,994	642	3,363	2,787	576	951	796	155	350	249	71.1	3.5	
	地域行政学	70	566	428	138	538	407	131	136	103	33	350	248	70.9	4.0	
	計	465	5,749	4,549	1,200	5,338	4,247	1,091	1,552	1,250	302				3.4	
文学部	文学科	日本文学	70	1,045	441	604	948	403	545	151	67	84	300	197	65.7	6.3
		英米文学	68	977	467	510	883	429	454	163	90	73	300	198	66.0	5.4
		ドイツ文学	23	216	98	118	189	82	107	53	30	23	300	188	62.7	3.6
		フランス文学	24	244	92	152	223	84	139	55	19	36	300	188	62.7	4.1
		演劇学	28	312	72	240	281	62	219	50	10	40	300	191	63.7	5.6
		文芸メディア	43	631	261	370	581	233	348	103	42	61	300	195	65.0	5.6
	史学地理学科	日本史学	51	785	531	254	708	480	228	112	76	36	300	198	66.0	6.3
		アジア史	20	275	152	123	239	131	108	55	33	22	300	197	65.7	4.3
		西洋史学	31	514	339	175	440	289	151	99	62	37	300	205	68.3	4.4
		考古学	24	332	204	128	299	186	113	52	33	19	300	190	63.3	5.8
	心理社会学科	地理学	26	280	205	75	249	187	62	46	37	9	300	190	63.3	5.4
		臨床心理学	24	612	225	387	556	202	354	46	16	30	300	209	69.7	12.1
		現代社会学	26	476	222	254	413	199	214	66	33	33	300	203	67.7	6.3
		哲学	20	464	296	168	407	260	147	53	41	12	300	203	67.7	7.7
計	478	7,163	3,605	3,558	6,416	3,227	3,189	1,104	589	515				5.8		
理工学部	電気電子生命学科	電気電子工学	80	855	801	54	824	770	54	248	232	16	360	262	72.8	3.3
		生命理工学	27	356	261	95	328	242	86	105	75	30	360	265	73.6	3.1
	機械工学科	75	1,469	1,356	113	1,397	1,296	101	350	324	26	360	281	78.1	4.0	
	機械情報工学科	66	885	810	75	848	776	72	238	220	18	360	272	75.6	3.6	
	建築学	88	1,819	1,281	538	1,758	1,234	524	275	198	77	360	288	80.0	6.4	
	応用化学科	60	1,226	911	315	1,152	858	294	383	283	100	360	269	74.7	3.0	
	情報科学科	65	1,586	1,407	179	1,494	1,324	170	290	261	29	360	287	79.7	5.2	
	数学科	32	451	384	67	425	363	62	136	119	17	360	265	73.6	3.1	
	物理学	35	779	692	87	728	647	81	248	228	20	360	272	75.6	2.9	
計	528	9,426	7,903	1,523	8,954	7,510	1,444	2,273	1,940	333				3.9		
農学部	農学	90	1,150	780	370	951	657	294	240	157	83	300	190	63.3	4.0	
	農芸化学科	100	808	314	494	668	260	408	216	74	142	300	186	62.0	3.1	
	生命科学科	92	1,416	796	620	1,196	679	517	313	166	147	300	191	63.7	3.8	
	食料環境政策学科	79	1,187	747	440	1,105	700	405	170	97	73	300	214	71.3	6.5	
計	361	4,561	2,637	1,924	3,920	2,296	1,624	939	494	445				4.2		
経営学部	一般選抜3科目方式	経営学	355	7,779	5,620	2,159	7,485	5,409	2,076	930	658	272	350	242	69.1	8.0
		会計学	40	169	92	77	160	89	71	43	21	22	230	127	55.2	3.7
	英語4技能試験活用方式	公共経営学	40	169	92	77	160	89	71	43	21	22	230	127	55.2	3.7
計	395	7,948	5,712	2,236	7,645	5,498	2,147	973	679	294				7.9		
情報コミュニケーション学部	情報コミュニケーション学	392	4,492	2,629	1,863	4,355	2,545	1,810	706	423	283	300	217	72.3	6.2	
国際日本学部	国際日本学	230	3,002	1,044	1,958	2,880	992	1,888	518	184	334	450	362	80.4	5.6	
総合数理学部	現象数理学	35	716	564	152	594	471	123	80	73	7	320	169	52.8	7.4	
	先端メディアサイエンス学	50	1,115	855	260	973	744	229	121	98	23	320	163	50.9	8.0	
	ネットワークデザイン学	30	569	501	68	484	424	60	30	26	4	320	170	53.1	16.1	
計	115	2,400	1,920	480	2,051	1,639	412	231	197	34				8.9		
一般選抜入学試験 合計		3,839	58,257	39,491	18,766	53,264	36,159	17,105	10,265	7,144	3,121				5.2	

② 全学部統一入学試験

	学部・方式・学科(専攻)		募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			満点	合格最低点	合格最低得点率	競争率 受験者/合格者
				計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子				
法学部		法律学科	115	2,417	1,653	764	2,323	1,581	742	501	355	146	300	228	76.0	4.6
商学部		商学科	80	2,297	1,543	754	2,224	1,484	740	285	195	90	450	357	79.3	7.8
政治経済学部		政治学科	20	451	327	124	434	315	119	126	98	28	350	269	76.9	3.4
		経済学科	50	1,006	839	167	943	785	158	284	241	43	350	264	75.4	3.3
		地域行政学科	20	202	146	56	193	137	56	68	48	20	350	259	74.0	2.8
		計	90	1,659	1,312	347	1,570	1,237	333	478	387	91				3.3
文学部	文学科	日本文学	16	379	158	221	369	153	216	56	18	38	300	232	77.3	6.6
		英米文学	18	386	168	218	371	158	213	63	25	38	300	229	76.3	5.9
		ドイツ文学	7	68	30	38	64	27	37	17	7	10	300	217	72.3	3.8
		フランス文学	7	121	42	79	116	40	76	26	9	17	300	221	73.7	4.5
		演劇学	8	185	38	147	182	37	145	27	9	18	300	234	78.0	6.7
		文芸メディア	7	191	78	113	182	75	107	25	7	18	300	234	78.0	7.3
	史学地理学科	日本史学	15	317	213	104	308	207	101	41	27	14	300	232	77.3	7.5
		アジア史	6	106	61	45	105	60	45	19	9	10	300	230	76.7	5.5
		西洋史学	8	187	121	66	178	117	61	36	26	10	300	230	76.7	4.9
		考古学	6	111	70	41	104	64	40	19	12	7	300	228	76.0	5.5
	地理学	地理学	11	158	120	38	151	113	38	31	23	8	300	222	74.0	4.9
		臨床心理学	11	279	99	180	267	92	175	31	17	14	300	237	77.3	8.6
	心理社会学科	現代社会学	10	241	109	132	228	103	125	41	18	23	300	231	77.0	5.6
		哲学	8	216	136	80	212	133	79	28	18	10	300	230	76.7	7.6
	計	138	2,945	1,443	1,502	2,837	1,379	1,458	460	225	235				6.2	
理工学部	電気電子生命学科	電気電子工学	20	242	226	16	216	203	13	73	67	6	400	282	70.5	3.0
		生命理工学	10	144	102	42	133	93	40	36	24	12	400	286	71.5	3.7
	機械工学科	12	393	366	27	333	309	24	91	89	2	400	295	73.8	3.7	
	機械情報工学科	17	349	321	28	317	290	27	97	91	6	400	287	71.8	3.3	
	建築学科	19	517	370	147	477	340	137	94	71	23	400	302	75.5	5.1	
	応用化学科	12	327	230	97	303	209	94	85	66	19	400	292	73.0	3.6	
	情報科学科	12	471	411	60	427	374	53	63	60	3	400	317	79.3	6.8	
	数学科	10	199	169	30	185	155	30	50	45	5	400	296	74.0	3.7	
	物理学科	5	166	148	18	153	137	16	43	41	2	400	300	75.0	3.6	
	計	117	2,808	2,343	465	2,544	2,110	434	632	554	78				4.0	
農学部	農学科	20	554	372	182	513	349	164	82	58	24	300	241	80.3	6.3	
	農芸化学科	15	340	139	201	329	137	192	41	13	28	300	247	82.3	8.0	
	生命科学科	15	665	366	299	624	341	283	59	32	27	300	249	83.0	10.6	
	食料環境政策学科	8	593	339	254	576	327	249	24	10	14	300	251	83.7	24.0	
	計	58	2,152	1,216	936	2,042	1,154	888	206	113	93				9.9	
経営学部		経営学科 会計学科 公共経営学科	30	2,823	1,789	1,034	2,760	1,753	1,007	141	81	60	350	298	85.1	19.6
情報コミュニケーション学部		情報コミュニケーション学科	25	1,505	782	723	1,453	754	699	107	58	49	350	278	79.4	13.6
国際日本学部		国際日本学科	28	1,903	730	1,173	1,865	718	1,147	107	42	65	400	351	87.8	17.4
総合数理学部	3科目方式	現象数理学科	4	104	74	30	97	68	29	12	6	6	400	298	74.5	8.1
		先端メディアサイエンス学科	7	94	63	31	88	59	29	13	12	1	400	306	76.5	6.8
		ネットワークデザイン学科	1	29	23	6	21	16	5	2	1	1	400	326	81.5	10.5
	4科目方式	現象数理学科	12	218	166	52	206	154	52	43	33	10	500	366	73.2	4.8
		先端メディアサイエンス学科	20	367	255	112	353	243	110	38	25	13	500	384	76.8	9.3
		ネットワークデザイン学科	23	333	281	52	315	265	50	62	54	8	500	353	70.6	5.1
	英語4技能4科目方式	現象数理学科	1	34	25	9	30	21	9	5	3	2	500	314	62.8	6.0
		先端メディアサイエンス学科	2	57	33	24	57	33	24	5	2	3	500	324	64.8	11.4
		ネットワークデザイン学科	1	31	25	6	29	23	6	3	2	1	500	317	63.4	9.7
	計	71	1,267	945	322	1,196	882	314	183	138	45				6.5	
全学部統一入学試験 合計			752	21,776	13,756	8,020	20,814	13,052	7,762	3,100	2,148	952				6.7

③ 大学入試センター試験利用入学試験

学部・方式・学科(専攻)		募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			競争率 受験者/合格者			
			計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子				
法学部	3科目方式	法律学科	60	2,171	1,370	801	2,162	1,364	798	432	244	188	5.0		
	4科目方式	法律学科	40	796	510	286	791	505	286	253	146	107	3.1		
	5科目方式	法律学科	40	1,493	1,036	457	1,490	1,033	457	771	533	238	1.9		
	計		140	4,460	2,916	1,544	4,443	2,902	1,541	1,456	923	533	3.1		
商学部	3科目方式	商学科	50	1,819	1,222	597	1,813	1,218	595	197	108	89	9.2		
	4科目方式	商学科	45	1,023	733	290	1,022	732	290	273	177	96	3.7		
	6科目方式	商学科	30	1,453	1,092	361	1,452	1,091	361	275	193	82	5.3		
	計		125	4,295	3,047	1,248	4,287	3,041	1,246	745	478	267	5.8		
政治経済学部	3科目方式	政治学科	10	442	310	132	442	310	132	102	63	39	4.3		
		経済学科	20	631	510	121	628	508	120	101	81	20	6.2		
	7科目方式	政治学科	15	300	209	91	299	209	90	178	117	61	1.7		
		経済学科	50	1,127	925	202	1,113	913	200	710	573	137	1.6		
		地域行政学科	15	87	66	21	86	66	20	44	37	7	2.0		
計		110	2,587	2,020	567	2,568	2,006	562	1,135	871	264	2.3			
文学部	3科目方式	文学科	日本文学	7	465	187	278	463	186	277	64	22	42	7.2	
			英米文学	6	364	155	209	359	152	207	45	16	29	8.0	
			ドイツ文学	3	92	42	50	91	42	49	20	10	10	4.6	
			フランス文学	2	83	28	55	82	28	54	19	6	13	4.3	
			演劇学	3	182	40	142	180	39	141	22	5	17	8.2	
			文芸メディア	5	268	92	176	265	90	175	43	14	29	6.2	
		史学地理学科	日本史学	6	396	254	142	396	254	142	45	29	16	8.8	
			アジア史	3	108	52	56	108	52	56	23	8	15	4.7	
			西洋史学	4	228	143	85	228	143	85	54	32	22	4.2	
	心理学社会学科	考古学	3	130	83	47	130	83	47	21	13	8	6.2		
		地理学	4	113	83	30	112	82	30	23	15	8	4.9		
		臨床心理学	4	271	98	173	271	98	173	31	7	24	8.7		
		現代社会学	4	244	110	134	241	109	132	33	9	24	7.3		
		哲学	4	234	146	88	232	145	87	40	22	18	5.8		
	5科目方式	文学科	日本文学	3	80	42	38	80	42	38	17	12	5	4.7	
			英米文学	3	50	21	29	48	20	28	13	5	8	3.7	
			ドイツ文学	2	18	9	9	17	8	9	5	2	3	3.4	
			フランス文学	2	28	12	16	28	12	16	15	8	7	1.9	
			演劇学	2	20	3	17	19	3	16	1	0	1	19.0	
			文芸メディア	2	40	17	23	40	17	23	11	5	6	3.6	
		史学地理学科	日本史学	4	90	63	27	89	62	27	24	14	10	3.7	
			アジア史	2	13	8	5	13	8	5	5	3	2	2.6	
			西洋史学	2	67	41	26	67	41	26	19	12	7	3.5	
			考古学	2	36	24	12	36	24	12	7	4	3	5.1	
		心理学社会学科	地理学	2	53	41	12	53	41	12	12	10	2	4.4	
			臨床心理学	2	80	23	57	77	23	54	15	5	10	5.1	
			現代社会学	2	79	36	43	78	35	43	14	4	10	5.6	
哲学			2	51	33	18	49	32	17	16	12	4	3.1		
計			90	3,883	1,886	1,997	3,852	1,871	1,981	657	304	353	5.9		
理工学部			3教科方式	電気電子生命学科	電気電子工学	9	526	492	34	524	490	34	192	183	9
		生命理工学			3	285	214	71	284	213	71	80	61	19	3.6
		機械工学科		5	717	662	55	716	661	55	198	186	12	3.6	
	機械情報工学科	7		650	590	60	648	588	60	198	181	17	3.3		
	情報科学科	10	1,124	981	143	1,120	978	142	205	182	23	5.5			
	4教科方式	電気電子生命学科	電気電子工学	5	368	333	35	368	333	35	159	138	21	2.3	
			生命理工学	2	209	148	61	209	148	61	55	37	18	3.8	
		機械工学科	7	519	448	71	517	446	71	168	142	26	3.1		
		建築学科	13	1,056	716	340	1,053	714	339	197	126	71	5.3		
		応用化学科	7	738	497	241	736	495	241	210	129	81	3.5		
		数学科	6	370	310	60	369	309	60	143	120	23	2.6		
		物理学科	6	450	385	65	448	383	65	166	145	21	2.7		
	計		80	7,012	5,776	1,236	6,992	5,758	1,234	1,971	1,630	341	3.5		

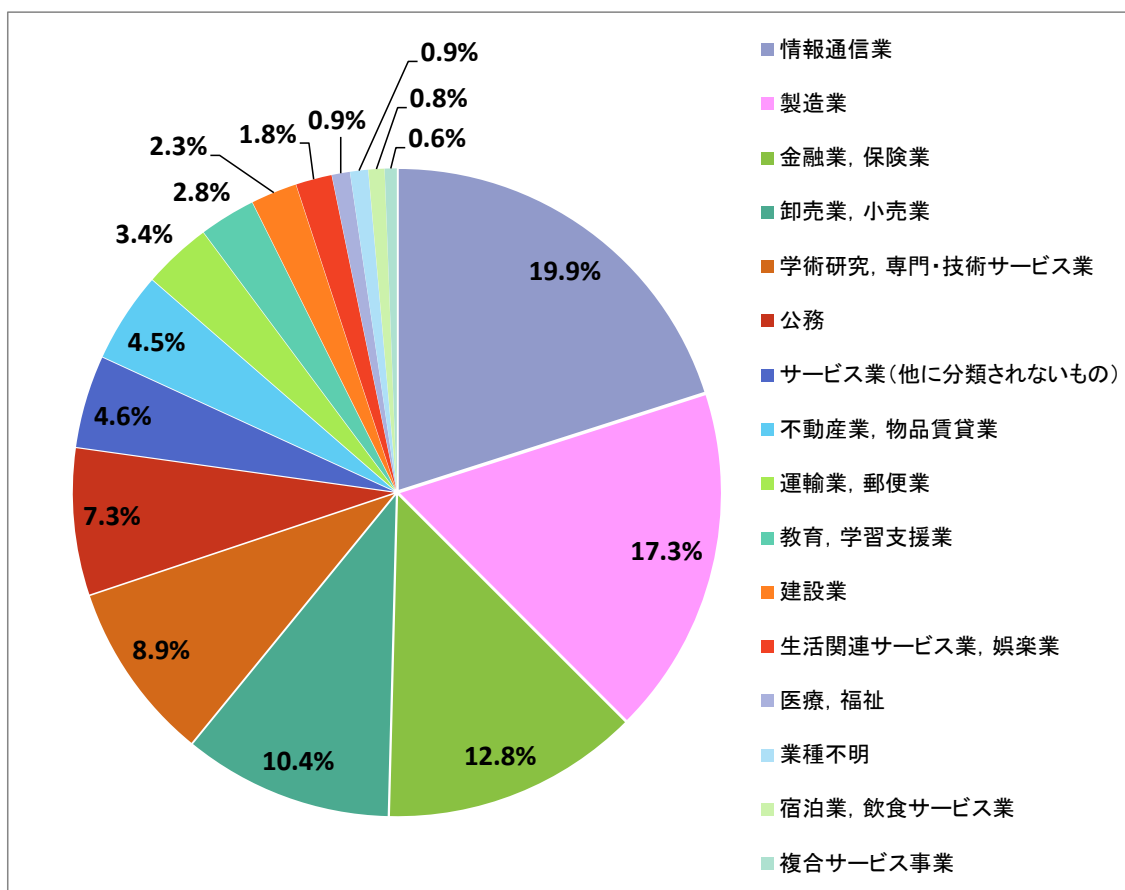
大学入試センター試験利用入学試験(前期日程)

農 学 部		農 学 科	12	561	367	194	554	361	193	196	118	78	2.8
		農 芸 化 学 科	10	370	134	236	367	133	234	135	52	83	2.7
		生 命 科 学 科	15	810	437	373	800	430	370	271	147	124	3.0
		食 料 環 境 政 策 学 科	16	537	288	249	537	288	249	146	68	78	3.7
		計	53	2,278	1,226	1,052	2,258	1,212	1,046	748	385	363	3.0
經 営 学 部	3科目方式	經 営 学 科 会 計 学 科 公 共 經 営 学 科	30	1,820	1,241	579	1,815	1,237	578	209	129	80	8.7
	4科目方式	經 営 学 科 会 計 学 科 公 共 經 営 学 科	25	714	502	212	713	502	211	144	91	53	5.0
		計	55	2,534	1,743	791	2,528	1,739	789	353	220	133	7.2
情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 部	3科目方式	情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	30	1,524	852	672	1,513	846	667	175	74	101	8.6
	6科目方式	情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	10	369	198	171	367	196	171	101	56	45	3.6
		計	40	1,893	1,050	843	1,880	1,042	838	276	130	146	6.8
国 際 日 本 学 部	3科目方式	国 際 日 本 学 科	20	1,015	300	715	1,014	300	714	195	46	149	5.2
	4科目方式	国 際 日 本 学 科	10	306	108	198	306	108	198	102	39	63	3.0
		計	30	1,321	408	913	1,320	408	912	297	85	212	4.4
總 合 数 理 学 部		現 象 数 理 学 科	7	252	184	68	248	181	67	52	39	13	4.8
		先 端 メ デ ィ ア サ イ エ ン ス 学 科	10	500	353	147	493	347	146	63	42	21	7.8
		ネ ッ ト ワ ー ク デ ザ イ ン 学 科	4	256	208	48	248	201	47	32	22	10	7.8
		計	21	1,008	745	263	989	729	260	147	103	44	6.7
前 期 日 程 小 計			744	31,271	20,817	10,454	31,117	20,708	10,409	7,785	5,129	2,656	4.0

大学入試センター試験利用入学試験（後期日程）	学部・方式・学科(専攻)		募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			競争率 受験者 /合格者	
				計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子		
商 学 部		商 学 科	30	187	128	59	178	121	57	75	47	28	2.4	
	理 工 学 部	電 気 電 子 生 命 学 科	電 気 電 子 工 学	3	25	23	2	25	23	2	14	13	1	1.8
			生 命 工 学	2	19	12	7	19	12	7	8	6	2	2.4
		機 械 情 報 工 学 科	3	34	31	3	34	31	3	12	10	2	2.8	
		建 築 学 科	3	27	15	12	27	15	12	9	6	3	3.0	
		応 用 化 学 科	2	28	21	7	28	21	7	12	10	2	2.3	
		情 報 科 学 科	2	30	27	3	30	27	3	12	10	2	2.5	
		数 学 科	2	24	17	7	24	17	7	5	4	1	4.8	
	物 理 学 科	2	13	10	3	13	10	3	3	3	0	4.3		
		計	19	200	156	44	200	156	44	75	62	13	2.7	
總 合 数 理 学 部		現 象 数 理 学 科	1	15	9	6	15	9	6	3	2	1	5.0	
		先 端 メ デ ィ ア サ イ エ ン ス 学 科	1	31	20	11	30	19	11	4	3	1	7.5	
		ネ ッ ト ワ ー ク デ ザ イ ン 学 科	1	18	11	7	18	11	7	8	6	2	2.3	
		計	3	64	40	24	63	39	24	15	11	4	4.2	
後 期 日 程 小 計			52	451	324	127	441	316	125	165	120	45	2.7	
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 利 用 入 学 試 験 合 計			796	31,722	21,141	10,581	31,558	21,024	10,534	7,950	5,249	2,701	4.0	
一 般 入 試 總 計			5,387	111,755	74,388	37,367	105,836	70,235	35,401	21,315	14,541	6,774	4.0	

(4) 業種別就職状況及び主な就職先

①業種別就職状況



②主な就職先

順位	内定先名称	人数
1	東京特別区	85
2	国家公務員 一般職	68
3	日本郵政グループ	39
4	(株)みずほフィナンシャルグループ	37
5	富士通(株)	31
6	(株)大和証券グループ本社	30
6	(株)りそなホールディングス	30
8	日本電気(株)	29
9	東京都庁	28
10	国税専門官	27
10	凸版印刷(株)	27
12	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	26
12	野村證券(株)	26
12	三井住友海上火災保険(株)	26
12	(株)三菱UFJ銀行	26
16	ANAホールディングス	25
16	TIS(株)	25
16	東日本旅客鉄道(株)	25
16	明治安田生命保険(相)	25
20	キャノン(株)	24
21	ヤフー(株)	23

順位	内定先名称	人数
22	ソフトバンクグループ(株)	22
22	第一生命保険(株)	22
22	日本アイ・ビー・エム(株)	22
22	東日本電信電話(株)	22
26	(株)千葉銀行	21
26	(株)ニトリホールディングス	21
26	日本航空(株)	21
26	みずほ証券(株)	21
26	三井住友信託銀行(株)	21
26	三井不動産リアルティ(株)	21
32	KDDI(株)	20
32	日本生命保険(相)	20
34	アビームコンサルティング(株)	19
34	NECソリューションイノベータ(株)	19
34	本田技研工業(株)	19
37	アクセンチュア(株)	18
37	(株)キーエンス	18
37	大日本印刷(株)	18
37	大和ハウス工業(株)	18
37	三菱電機(株)	18
42	SCSK(株)	17

2019年3月31日現在